スルト収入差引三円トイフコトニ為リ二十五人デ一人当リ十二銭二十人デ一人当リ十五銭平均十五銭ヲ出ナイト云フ計算ニナラザルヲ得ナイ、ソレヲ労働者ニ対スル賃銀ト対照スレバ昭和六年ノ最低賃銀ハ紡績女工デスラ七十五銭其他ノ職工ハ何レモ二円平均一円八十七銭工夫職工何レヲ問ハズ平均一円五十銭以上デ農家ニ比較シテ驚ク程多イガ然シ労働者ノ生活ハ裕カデアルカト云フト之又最低ノ生活ヲシテ居ルノデアル、五十銭以下ノ農家ノ生活ハ実ニオ話ニナラナイ。今度ハ麦ノ場合ニ就イテ申上ゲタイト麦ハ米ト違ツテ既ニ「マイナス」ガ出ル収入カラ支出ヲ差引クト足ラナイ養蚕モ又オ話ニナラヌ一反歩ノ葉カラドレ丈ケノ繭ガ出来ルカト云フト十五貫一貫目三円トスルト四十五円肥料ハドレ丈カヽルカト云フ

コトハ数字的ニハ省クガ茨城ノ土浦デ市場ニ繭ヲ持込ンダ時ニ一貫目ニ円五十銭カラ一円八十銭トイフ相場ヲ示シ全部ノ売上ゲデ肥料代ガ足ラズ貯金ヲ拂出シテ肥料代ヲ拂ツタト云フコトデアル、之ハ縣当局ノ話デ事實デアル、コンナ譯デアルカラ借金等シテ田地ヲ買ヘバ金モトラレルト云フ言語ニ絶シタ状態デアル

才、其他ニ農家一戸当リノ収支状態ニツイテ

橘　農家ニハ簿記ハ複式ハ勿論單式モナイ金銭出納帳サヘナク収支ヲ見ルコトハ非常ニ困難デ之ヲ明カニスルコトハ出来ナイガ私ガ根本的改善ヲ企テ四ツノ基本型ヲ造ツタノデアリマスガ其實際ヲ申シ上ゲマスト家族ハ六人トシテ 1、牛一頭、2、耕地面積一町二反 3、労力六人 4、他ノ労力ヲ買ハズニ

農作可能

昭和五年度ニ於ケル收支状況ハ一町二反歩ノ最高限度ニ於テ最高率ニ於ケル收獲高ニヨル收入ノ全額ハ何程ニナルカ之以上ハ出来ナイト云フ迄

1.作付水田　六反歩

一反歩二石五斗トレテ十五石、持米ヲ差引キ九石トシテ一石十五円デ計金一三五円

2.大麦　三反歩

之ハ自家用

3.小麦　二反歩

一反歩一石六斗トレテ四斗俵八俵一俵三円五十銭トシテ計金二十八円

4.(昭和ニ間取レザルモ多分豆類)　二反歩

二石四斗

5、雑穀
自家用　一反歩
6、蔬菜
自家用　一反歩
7、園藝又ハ工藝作物
8、（肉取レズ）　一反歩　計金三十系
9、（〃）　三反歩
繭ハ三十四貫一貫目三系トシテ計金一〇二円
合計二九五系之ガ農家ノ現金收入デ之ヲ三〇〇円
ト切上ゲ、支出ハ
1、肥料、道具、固定資本
2、負担、借金ト利子
肥料ハ一反歩八円トシテ九十六円、道具設備費
ハ三円五十銭以上四円二、三十銭デ養蚕ノ時ハ未

ヲ.

ダく高イノデスガ之ヲ三円トシテ計金三十六圓、負担額ハ平均八十圓、借金支拂ハ正確ニハ分ラナイガ大体八百圓ノ借金ヲ背負ッテ居ルトシテ返済金ハドノ位カト云フト農工銀行ノ年八分ノ十五ヶ年々賦トシテ一割一分トシテ八十八圓以上合計三〇〇円ト云フコトニナル、收支差引「零」現金ハ一ツモ残ラナイト云フ計算ニナル、一家六人ノモノデ病氣モスレバ着物モ着ル、電燈モツケル假ニ借金ガ無イトシテモ八十八圓デ一年ヲ押ヘテ行カナケレバナランコトニ爲ル又負担ガナイトシテ一七〇円ノ現金收入デ農家ガ暮シヲ立テルトスレバ一ヶ月十五圓一人当リ二円余リ辛ジテ水呑ミ百性デアル之デ生計ヲ立テルコトハ明カニナッタ、又私ハ塾ヲ始メルニ當リ百性ハ飯ヲ何杯食ヒ味噌ハ何匁

拂餘ノ三本一週間ニ一度位ハ鰹ノ五、六本位[illegible]
直接ノ現金拂ヒガ一ケ月八円位要スルコトニナッタ、
五十二円六十八銭ノ收入アル労働者、俸給生活者
ノ一ケ月ノ支出表ニヨルト差引三十四銭残ルト云フノ
ヲ見タコトガアルガ今ノ農家ハ到底比較ニハナラ
ナイ、尚一ツ具体的ナ事実ニツイテ申上ゲレバ[illegible]
郷會ニ一人ノ熱心ナ青年ガ昭和四年カラズット
收支ヲ記入シタガ收入ハ別トシテ此農家ハ七人家族
シデ水田五反五畝、畑ハ八反五畝ノ小作兼自作
農デ昭和五年度ノ一年分ガ

肥料ハ一九一円　借金返済ガ一五四円
納税　五四系　其他四五系
直接生計費ハ米麦ハ除キ
醤油、塩、十四系

奥　六弗
菓子　一弗七十七銭
烟草　八弗九十四銭
老父ノ晩酌　五十二弗十銭
医療費　四弗二十五銭
炭　二弗五十銭
授業料及其他ノ教育費　八弗四十一銭
冠婚葬祭費　五十三弗

大体斯ウイフ状態デアル、如何ニ惨メナモノデアルカ判ル之ハ但オ切ツテノ模範的ナ農家デ死物狂ヒデヤツテ居ルノデアル、農民ハ風ヲ引カヌト思フカモ知レナイガ営養不良デアルカラヨリ風ヲ引クガソレハ蒲団ヲ頭カラ被ツテ寝テ居スノデアル又私ノ処ニ来タ青年ガ「トラホーム」デ眼ガ潰レ相

ニナツテ居タガ全ク目ガ潰レルノモ知ラズニ働クノデ
アル。病氣ニ罹ツテモ初メハ売薬ソレカラ鍼医、最
後ニ開業医ニカヽルガ其外ニハドウニモナラナクナツテ
居ルノデアル。冠婚葬祭ニハ莫大ナ費用ヲ儀ケ
ルガ之ヲヤラナケレバ村カラ除ケ者ニサレル此精神ハ
愛スベキ敬スベキモノデアル私ハ一高ニ這入ル時ニ
親ガ「オ前ハ立派ニナツテ一ケ月十五糸送ツテ呉
レサウスレバ俺ハ晩酌ヲ呑ンデ安楽ニ暮レタイ」
ト一度云ハレタコトガアル私モ其酒代ヲ送ツテ親孝行
ヲスベク一高ニ這入ツタノデアルガ其親心ヲ思フトキニ
実ニ泣カザルヲ得ナイ（ト声ヲアゲテ泣ク）実ニ農
村ハ水サヘ呑メナイト云フ実状デアル。私ハ朝五時ニ
時ニ起キテ「オアイレ」ヲ汲ミマシタ、朝早イノデ暗
クテ便所ノ附近ニコボスノデ其後ニ行クト臭

政才此言ヲ食フ自分デシタ農業シテヰリ而カモ食ヲ生
シテ置ケナイノデハナイカ自分デ掃除ヲスルノハ当然ダ
ト思フ人農業ハ四日間スレバ自己ノ消毒ヲヤルノハ立派
ニ栄養ガ必要シテ居ル至々ハ自分デ作ッタ米ガ自分
デ食ヘナイ私ハ感極ッテ申上ルコトガ出来ナイ
「年来十財五十五年休憩合十一財平和再興」列挙橋
除述ニ移ル.
才西氏経営提唱的観察ニアリ観タル農村ノ悲惨ナ状
態ニツイテノ
橋　如何ニ悲惨ナドン底ニ陥レラレタカヲ農村全体
ニツイテ数字的ニ申上ゲタイ、最モ極メ込ンダ
状態ヲ申上ゲタイ日本ノ全肥料消費額ノ既私五千
政ニ已億三千万余トイハレテ居ル所ノ相手保ノ既
和四年ニ四億五千万余ト見積ッテアル借金

千億ハ前モ申ヒタ様ニ昭和一、二年頃、農家ノ負債
ハ四十億トイハレテ居ル私ノ信ズベキ研究ニ因ルト三十
億ニナツテ居ル殆ド長塚ヲ中心トシテ研究スルモノデ十
億トイハレテ居ルガ之ヲ四十億トシテ一割一分ノ利子
ヲ以テ当テルト四億四千万円デアル低利資金ノ如
キハ五ケ年―位ハ極メテ短期デアルカラヱツト莫
大ナ額ニナルノデアル、肥料及借金モ千億ニ於テ十二億
三千万円ヲ支払ハナケレバナラヌ又収入ハ昭和五年ノ締
ニ見ル米ノ農作デ六、六〇〇万石ト云フ収穫ガアリ
諸費ハ三一、三〇〇万石小作料トシテ一、七〇〇万叺
ノ水田小作及当年始一石トシテ一、七〇〇万石合計一五、
〇〇〇万石ガ損費セラレ差引一、六〇〇万石トイフ数
字ニナリ之ヲ一石十五円トシテ二億四千万円トイフ
収入ヲ得テ居ル訳デアル収ニ繭ガ昭和五年ニ一億万

貿トイフ「レコード」ヲ作ツタ、三弗トイフ相場デ取引シタトシテ三億万弗 両者ノ計五億四千万弗トナル差引六億九千万弗ノ不足ニナル之ヲ何ヲ以テスルカト云フコトデアルガ（ヘナケレバナラン、米ト繭ヲ除タ農産物ノ價格ハ麦類ノ二億三万弗四其ノ他大豆馬鈴薯蔬菜等食料農作物デ一億五千百萬円其ノ他ハ蔬菜園藝作物一億五千百万弗工藝作物九千万弗 製糸二千四百万弗合計十六億三千百万弗繭ノ生産ノ如キハ莫大ノ費用ガ要ルガ之ヲ差引カズシテノ

（山下治郎）

(橋)(オ)

申上ルト差引六千萬圓トスフ莫大ナ差ガアル
列底之ハ問題ニナラナイ蔬菜ハ五割 玉葱ハ六割一分
俵ハ五割九分ノ下落ヲ来タシ 綿糸ハ五割以上 繭糸ハ五割
以上 米ハ半額以下ニ下落シ 昭和四年ニ三十四億ガ五
年ニハ二十二億萬圓トスフ迄ニ下落シテ居ル 今仮ニ一億
萬圓ノ金ヲ何カニスレバ社会ハ随分騒グダロウト思フガ
此ノ莫大ナ損害ヲ何ト見ルカ
借金モ下リ負担モ下レバ良イガ 却テ借金ガ百億ニ
モナッタ様ナモノデアル
農家ノ窮乏状態ハ実ニ悲惨ナモノデアル 馬今暮ガ
弟ノ難リニ莫大ナ債負ヲサレテ居ルノデアル
農村窮乏ヲ物語ル一、二ノ実例ニ付テ
実例トシテ今申上マシタガ 篤農家デスラ前ニ比べ
多様ナ窮乏デ実ニ名ニハ 分ラナクナル 神戸ネ一ノ給ホト

/

云フ貿易商ノ税金ガ三万六千円ト云フ馬鹿ニヤ額
デアッタノガ取調ノ結果一躍四十八万円ト云フ額
金ガ掛ケラレタ之ハ脱税シテ居タノデアル 百姓ハ死ン
デモ其ンナ事ハ致マセン 自分ノ腹ヲ縮メテモ払フト
云フ実ニ惨メ極マルモノデアル 負担干係ニ於テ最モ大キ
イノハ国税 県税 最近ハ村税モ納メラレナイト云フ状
態ダ 村税ハ大低三千五百円 デアルガ役場ノ費用ハ勿論
小学校ノ教員モ月給ヲ貰ヘナイト云フ状態ダ 茨城県
三分ノ二ノ町村ハ六ヶ月 三ヶ月 或ハ一ヶ月 後レテ又リ半月
分ヲ或ハ米等ノ現物ヲ支給シテ居ルノデアル 正ニ日本ノ最
高ノ危機デアル 佐藤君ニ 六月頃小学校ノ生徒ノ弁当
ノ「オカズ」ヲ調ベサセタコトガアリマスガ五、六銭ノ鮭ノ切レヲ
持ッテ来ルノハ百人中五人カ七人デ之ハ勿論村ノ地主サンヤ高
利貸ヤオ医者サンノ子供デ大多数七十五人ハ梅干ト沢庵

ノ切レデ欠食児童ハ十パーセントノ率デアル后藤君ノ村ハ決シテ貧乏村デハナイノデアル帝国ノ児童ナラバ大変騒グガ農村デハ世間ガ其ンナニ騒ガナイデハナイカ時ニ午后。時ニ裁判長ハ一時間ノ休憩ヲ宣シタリ午后一時五分再開訊問ニ先チ植田弁護士ハ新潟縣ノ市町村長助役ト云フ人カラ全文悉ク血書ノ嘆願書ガ来テ居ルト述ベテ提出ス

裁判長ハ橘ヲ呼出シ「大分疲レテ居ル様ダガ腰掛ケテ述ベテモ良シイ」ト温情味アル言葉ヲ与ヘタモ橘ハ「大丈夫デス」ト答ヘテ起立ノマヽ陳述ニ入ル

(橘)ハ(木)

昭和六年末政変ニ依テ更ニ悪化セル農村状態ニ付テ

井上蔵相ハ金融状態ヲ確立スレバ経済状態ガ安定スルト英国ヲ真似テ不景気ガ恢復ヨスルト云フ確信ノ下ニ金解禁ヲヤツタト云フガ金融業者ニハ福

者デアッタデアリマセウガ農民並労働者ニ死ノ宣告デアッタノデアル 日本ハ加工國デアルカ故ニ貿易ニ依テ之ヲ維持シナケレバナラヌト云フ考ヘノ下ニヤラレタノデアル 昭和五年一月十一日解禁ヲ断行シ一億五千六萬円ノ正貨ガ海外ニ流出シ十億円ノ正貨ガ八億円台ニナッタノデアル 一般農民並ニ労働者ノ窮状ハ極度ノ生産制限トナリ失業者ヲ積出シ朝野ハ之ヲ呪フ様ニナッタ 然ラバ之ハ國策ヲ確立スル確信ノ下ニヤッタノデアラウガ世界ノ大勢ハ何ウデアッタカ 昭和五年ノ七月ニ「オーストラリヤ」ノ最大銀行ガ破産シ英國ガ卒先シテ之ガ救済ニ手ヲ付ケタガ手ニ負ヘナイ直チニ独乙ニ飛火シ最モ有力ナ銀行ガ潰レタノデアル 独乙ハ非常ニ莫大ナル戦債ヲ負ハサレテ居ルノデ「フーヴァー」ガ乗出シ又之ガ英國ニ飛火シ英國ハ之ガ生命トシテ居タ金

本位制ヲ更ニ金再禁止ヲヤラザルヲ得ナイ状態ニナツタノ
戦后金本位ノ中心ハ紐育ニアルト云ハレタガ夫レハ一部分
デ本当ハ英国ノ倫敦ニアルノデアル
其ノ損失モアツタノデアルガ今度ハ三井ガ筆頭デ弗ドル
買ヒニ狂奔シタ之ハ勿論思惑買デアル資本總動員デ
熱中シテ行ツタノデアル之ニ依リ民政党ノ政策ハ根
本的ニ破壊サレ其ノ対策トシテ正金銀行ヲシテ之ニ当
ラセ日本銀行ヲシテ金利ヲ引上ゲ財閥ハ悲シムベキ状
態ニ追詰メラレタ時政変ハ瞬ク間ニ起ツタ民衆ハ之カ
良ク知ラナイカラ單ニ之ヲ喜ンダノデアル今迄民政党ノ
緊縮デ困ツテ居タガタメニ政変ヲ望ンデ居タノデアル
然モ其ノ政変ノ裏ニハ斯様ナコトガアルノデアル政変ノタ
メニ二十円以上ノ深川相場トナリ年ヨリ起ツト二十三円迄昇リ
中央市場デモ総五円ノ米騰ヲ来シタノデアル昭和六年ノ

凶作デ東北ハ饑饉デアッタが收獲ハ五千八百万石ト記憶シテ居ル位ニ之ヲ六千万石トシテ千五百万石ヲ市場ニ賣ルトシテ七千五百万円儲カルト百姓ハ喜ンダ然モ買フ方ノ肥料ハ四割ト云フ昂騰ヲ来シ實際ハ四割テハ止マラナイ豆粕ノ如キハ横浜デ五割八分ノ昂騰ヲ来タシテ居ルノデアル之ヲ四割ノ沸騰ヲ来タシタトスレバ一億三千二百萬円ト云フ昂騰ヲ来シ六千萬円以上ノ損失が農家ニ加ヘレタト云フコトニナッタ之が政変ニ依リ惹起サレタ結果ノ一ツデ他ハ押シテ知ルベシデアル政友会ノ某巨頭ハ政変来ノ二日前ニ米ヲ買占メタノデアル四、五日ノ間ニ百萬石買ッテ居ル夫レハ一石十六円程度デアル七千五百萬円ノ利益ハ斯様ナ政変ニ依ッテ占メラレタコトハ推側ニ難クナイト思フ農民ノ期待ハ全ク裏切ラレタノデアル私ハ此所デ小学校デ教ハッタ猿カニ合戦ヲ想起サザルヲ

(欄ノ外)

ヲ得ナイ、握飴ト鞭ノ権ヲ取リ替ヘテ早ク芽ヲ出セ鞭ノ権早ヤク實ガナラヌ又ト鞭デ換切ルト云ッテ脅テ漸ク成ッタ其ノ鞭ヲ投ゲ付ケラレテ死ンダ「ガ」ニヲ斬クテ農民大衆ハ何モ云ハズニシテ居ラレルカ何ウカ政友民政モ一切合切当ニハナラヌ 正ニ暗黒 其ノモノト云ハズシテ何ト云フ

其後ハ最近ニ於ケル 被告ノ農民運動ニ付テ

此ノ農民ノ瀕死状態ヲ見ル時ニ國ノ為ニ見捨テヽ置クコトハ出来ナイ 實ニ情ナイト云ッテ良イカ何んモ言フコトハ出来ナイト云ッテ 鉄道従業員ノ執ッタ仝盟ヒ業ニ出ルコト等ハ出来ナイ 背中ニ背負ヒ切レナイおノ義務ヲ負ハサレ乍ラ権利ヲ主張スルコトハ出来ナイ正ニ奴隷ダ今日ノ時代ニハアルベカラザル話デアルガ実際ハアルノデアル 全ク奇蹟デアル 竹越與三郎氏ノ著書

ニ豊臣秀吉ハ農民ヲ圧スルトアルが蓋し適評ダト
思フ其ノ圧迫状況ハ不情ケデアヲ殖リ百姓ニセラレタ
免ニ角秀吉ハ徹底シタル農民搾取ヲヤッタノデアル百
姓が一度天下ヲ取ルヤ所謂百姓ヲ圧シテ仕舞ッタノデ
アル百姓ハ夫レ以来貧窮ニ投込マレタノデアル鎌倉時代ヲ見
テモ判ル死ナナイ様ニ生キナイ様ニ水ヲ呑ニデ暮ス様ニ搾
取シタノデアル実ニ巧妙ナ搾取デアル
徳川家康ハ又
つと見れば及はぬことの多かりき今着て暮せ足がいにし
トユフ歌ヲ作リ百姓ヲ圧迫シタモノデアルが実ニ馬鹿ニ
シタモノデアル　私モ小サイ時ニ耳ニ胝が出来ル程聞イ
タが封建時代ニハ何レ丈ケ聞カサレタコトカ　サウシテ法律
ハ知ラシムベカラズ依ラシムベシトユフ頭迄モ搾取シタノデ
アル　農民ハ何ニモ知ルコトハ出来ナイが　偶々佐倉宗吾ら

ノ様ナ者ガ在レバ其ノ惨酷ナ様ハ何ウデスカ
私ハ愛御堂ノ運動ハ何処モ悪イコトハナイト思ッテ居ル封建ガ終リ明治ニナルト西洋文明デ徹頭徹尾排農的デアッタ此ノ奴隷ニ対シテ自力更生等トイフコトハ以テノ外デアル吾々ハ正々堂々ト運動シテ之ヲ華正スルガ如キハ今日ノ暴挙デアル前ニハ絶対期待スルコトハ出来ナカッタ正ニ結核第三期ニアルノデアル一刻モ捨テ置クコトハ出来ナイ之ヲ誰ガ命迄モ捨テヽ救ハントシタ人ガアルカ私ハ夫迄ニ何トシカシテ之ヲ目醒メサセタイト思ヒ水戸ノ愛國婦人會迄行ッタコトガアル一日愛國婦人会ノ人ガ来タノデ塾ニ入レテ「カステラ」ノ御馳走ヲシテ一席弁ジタノデアル或ル知事ノ如キハ「全体目下ノ農民ハ一年ニ百八十五日シカ働カナイ」ト云ッタ私ハ其時蒙ヲ啓キタイト思ッタガ隠忍自重シタノデアル私ト風見サントガ時局対策座談会

ヲヤッタ時ニ私ガ農村郷土ノ話デ篤農家デアル某ノ話ヲスルト内務部長ハ篤農家ナラバ此ンナ処ニ来ヤ張ラナクトモイヽト云ッタノデ彼ガ憤激シタノデアルガ私ガ睨付テ事ナキヲ得タノデアルガ実ニ馬鹿ニシ切ッタコトデアル其処デ私ハ之ハ中央ノ問題ニシナケレバナラン中央ニハ私ト仝ジ考ヘヲ持ッテ居ル者モアルダロウサウシテ全国的ニ其ノ運動ヲ捲キ起サウト決心スルニ至ッタノデアル昭和六年九月デアルガ口田氏カラ手紙ガ来タノデ其ノ時ハ加藤一雄武者小路實篤下中彌三郎等ト農民運動ヲ起スベク準備會ヲ作ルベク集ッタノデアル何ウモヤルナラバ真剣ニヤラナケレバナラント云フノデ岡本長野朗氏等七、八人ガ集ッタガ前ノ人トハ顔触レガ違ッテ居ッタ夫レヲ前衛トシテ啓蒙運動ヲヤルベク発企人会ヲ持ッタノデアルガ茲ニ村治派仝盟ハ農本聯盟ノ二ツニ刻シ私ハ農本聯盟ニ干係シタ

ガ岡本氏ノ産業組合ニ付テ政治的ニ私ハ反対シ農本
聯盟ノ協議会ガ開カレタ時岡本氏ト其ノ賛成者ヲ
向フニ廻シ正面衝突ヲシ其ノ処デ私ハ農本聯盟ヲ
別レ長野氏ト二人デ数ハ少ク共気骨ノ運動ヲ仕様
ト新潟ノ稲本福島ノ官古信州ノ某ト五人デ自治
農民ハ会盟ト名付ケテヤル様ニナッタ其ノ処デ今ハ議論
等ヲシテ居ル時デハナイ
ノ借金ノ三十年猶予
二、五千萬円ノ貸付
之等ヲ提ゲテ農民ニ呼ビ掛ケタ之デ私ハ本質的ニ農
民運動ニ這入ッタノデアル　私ハ合法的ニ全国的ニ此ノ
運動ヲ起スベク実ヘ入レタノデアル又一面私ハ愛郷運動
ニモ実ヘ入レ愛国革新ノ運動ヲヤッタノデアル七年ノ初
メ満洲ノ橘田氏カラ王道政家ヲナラナク

以下次葉へ

テハナラヌ夫レニハ農民デナケレバナラヌ然レ貴殿ヲ於イテ他ニ人物ハナイ是非共来テ呉レヌカトノ手紙デシタガ私ハ体ガ弱イノデ断ツタスルト折返シ「日本ノ農村ヲ捨テルノデハナイ満州デヤッテ日本ノ方ニ働キ掛ケルノガ早道デハナイカ」ト云フノデ私ハ成程ト合点モシタノデアル夫レカラ又手紙ヲ貰ッタノデ日満両方ヲヤルベク愛郷塾ノ全議ヲ経テ満州ニ行クコトニ決心シ全般的運動ヲ起スベク考ヘテ居タガサウシテ居ル間ニ今回ノ事件ニ干渉スル様ニナッタノデアリマス

午后二時十三分休憩　仝二時三五分再開

戈　月取迄ニ於ケル社会状勢一班ニ付テ

橘　今迄ニ縷々申上ゲマシタ通リ今回ノ事件ヲ挙ゲル前ニ全ク重病人ニ等クコトヲ強ヒラレルノモ仝ジダト思ッタ為政者ハ代ノ状態ヲ何ウシタカト云フコト一言ノ説明モ要ラ

ナイ農民ハ氏ノ苦シイ状態ヲ脱シ出サンガ為ニ寧ロ自分ノ苦シミヲ忘レテ政友民政ヲ支持シテ来タガ其ノ悲惨ハ実ニオ話ニナラヌ村長始メ有志ハ政党ノ傀儡トシテ二派ニ分レ小イ商売屋迄二派ニ分レ政友ノ酒屋民政ノ菓子屋丼ト云ハレル様ニ分レ騒ゲバ騒グ程自ラノ墓穴ヲ掘ッテ居タノデアル農民徳川ノ時代カラ頭ニ押込マレ無智デハアルガ真剣サガアル赤児ノ様ノ純潔ナ者ヲ誑カス位罪深イモノハナイト思フ秀吉ハ百姓ニ生レテ天下ノ実権ヲ握ルヤ百姓ヲ圧迫シ徳川ハ又水文ハ呑ム様ニ保護モシタガ氏所ニ天下ノ大理想ヲ喝破シタノガ水戸義公デアル大慈悲心ニ富ミ之ヲ原理トシテ皇道国家ノ実現ノ為ニ行ハレタノガ明治ノ維新デアル実ニ明治大帝ガ御聖徳ハ何共有難イコトデアルト思ノ其ノ后ニ来タノハ唯物的西洋文明　金力政党「ファッショ」デアル之レガ打倒サレ没落スベキハ歴史ノ必然性デアル

私ハ政党ニ向テ何モ云フ考ヘハナイガ金乃政党ハ何ンナ事ヲシタカ金解禁ニ依リ日本ノ一般所状勢ハ悪化シタコトハ申上ゲル必要ハナイガ最近ノ政変ガ捲キ起シタ二三ノ実例ハ金解禁后ニ政府ノ為シタル処ニ一瞥ヲ與ヘルニ昭和五年ニ生糸ガ暴落シ糸價安定、金融補償法ニ依リ補償買上シヲ一億五百万円ヤツク一億万円以上ノ金ヲ懐ニシタ商人ハ幾ラカ高ク買ツタカト云フト之ヲ忌憚ナク申上ゲレバ寧ロ買止メノ黙契ヲサヘシタノデアル

其ノ半面ニ於テ繭ガ安ク然モ生産ハ過剰状態デ土浦、繭市場ニ行クト暴落シテ代金ト云フ処デ問屋筋ヘ一肴ニ買ヒ去シタ更ニ失業救済農産業臨時対策補償法デ七千万円ヲ去シタガ農民ニハ三千万円ト云フコトデアツタガ其ノ金ガ何ヲ云フ爪ニ分取サレタカト云フト抵当物权ガナケレバ相成ヲント云フノデアル貪窮ノ農民ニ抵当物权ガアルト思フカ吾

々ハ其ノ恩恵ニハ浴サナイ只傍デ見タ丈ダ之ハ党勢拡張ノ具ニ供セラレ、代議士県會議員ニ縋ラネバ何ラヲモ其ノ恩恵ニハ与リ得ナイ現状デアッタ斯ク考ヘテ来マストオ話ニナラヌ私ノ慨歎神経ハ麻痺シテ涙サヘ湿サナイ或ル熱心ナ代議士ハ時リ町田氏ニ七千万円位ヲ出シ新仕様ガナイヂヤナイカト云フト「之丈デモ出サヌトオ一君ガ困ルヂヤナイカ」ト一矢報ヒタト云フ之レヲ以テ其ノ一端ガ判ル三井ハ満州デ豆粕ノ買占メヲヤッテ大儲ケシタト云フガ満州事変ニ誰ガ行ッテ働イテ居ルカ東北ノ師団ガ行ッテ居ル七年ニハ豆粕ガ五割上ッテ居ルガ豆粕位ハ無償デモヨイト思フ某鉄道大臣ノ如キハ生命保険ヲ附ケナレバ集レナイ様ナ私ノ近ふり鉄道ヲ買収シ之デ「イヽフレ」ダトハ全クオ話ニナラナイ私ハ満州ニ渡ッテ丞衆ノ為ニ人類ノ為ニ働クコトヲ決心シタガ古賀請カラノ話デ止メマシタガ実ニ悲惨ナ状態

ニ投込マレテ居タノデアリマス或時私ノ近所ノ百姓ガ血盟団事件ノ井上ツタ直后デアッタガ「井上日召ハ実ニ偉イ人物デアル何ニモ知ラナイ人ガ日召ト云フ奴ハ偉イ「彼ハ正ニ当代ノ佐倉宗五郎デス橘先生私ガ田地ヲ買ッテ借金ガアルノデスガ最近ノ縣廳ノ役人ガ来テ税金ヲ納メナケレバ何デモ持ッテ行カウト云フノデ薪ヲ持ッテ振上ゲ持ッテ持行クナラ持ッテ行ケト云フト吏ハ其ノマヽ帰ッタ俺等モ子供ガナケレバアンナ役人ニ一発位ハ放ス勇気ガアルト云ッタガ私ハモウ日本モ駄目ダト思ッタ私ハ獄中ノ日沼ヲ想ヒ涙シ禁ズルコトガ出来ナカッタ日召ハヨク言ッタ「世ノ中ニハオ山ノ大将ニナリタガル奴ハ許山アルガ捨石トナル奴ハナイ橘サン誰ガ天下ヲ取ッテモ之以上腐ッタ天下ヘナイ位ト[illegible]ヒニナルト何日モ言ッタノデアル何レテ志日召ヲ[illegible]ルコトガ出来マセウ私ハ静カニ国家改造具体案ヲ練ッテ来

橘孝

タノデアルガ今ヤ既ニ一切ヲ捨テヽ起ツト云フ決心スル

タ次第デアリマス

以上述ベタモノヽ結論トシテハ

大体以上ノ様ナ事デアリマシテ大勢ノ促ス処ニ従ヒマシテ社会ノ動向ヲ発見仕様ト努力シマシタガ病根ノ存スル処ハ客観的ニ見テ農村デアルト断ゼザルヲ得ナカツタ其ノ因ツテ来タル根本原因ハ西洋文明ノ発達ト資本主義ニヨリ持チ来タラシメタルト思ヒ祖国ヲ愛シ東洋精神ニ生キ皇道ニ立チ資本主義ヲ勤労主義ニ変ヲセ統制経済ニ致シマス為ニハ国民共同体皇道国家ヲ措イテ他ナイコトヲ発見スルニ至ツタ今時ニ国民共同体皇道国家ノ建設ハ矢張農村ニアルト断ゼザルヲ得ナカツタ悉皆其ノ事ヲ知ツタノデ一ヵラ十迄政治上ノ支障モ何ニモ其ノ予ニ付テハ顧ミル事ガナイ様ニ私ニハ考ヘラレタノデアリマス

一

祖国日本ハ恰モ盲人ガ断崖ニ架ケラレタフラフラ〱シタ一本櫻橋ヲ渡ツテ渡ツテ居ルトシカ思ヘナカツタノデ御座イマス然モ現実ヲ顧ミマスト屡々私ハ只今申上マシタ様ニ全力的政党ファッショ社会ノ一般状勢ガ之亦急迫ニ更ニ急迫ヲ以テシテ居タノデアリマス最近ニ至リマシテ全国民ノ反農状態ニ迠突進シテ居タノデ御座イマス心アル余ノ意ハ何ウシテ之ヲ黙過シテ居ルコトハ出来マセウカ勿論今ヨリ革新ノ要ヲ相語シ或ハ企テナイデ居ラレ様道理ハ私ハナイト思ツタノデアリマス即チ私自身ヲ国家改造ノ鍵扉トシテ期待スルコトヲ必然カニ傾ツテ参ラザルヲ得ナカツタノデ御座イマス今時ニ夫レノ実現ヲ図ル為ニ自ラ進ンデ運動ノ渦中ニ身ヲ投ズルニ至ツタナデアリマス今時ニ私ハ心ヲ許シタ相手ニ対シテ国家革新ハモヤ絶対トナツテ居テ吾々ハ牛ノ歩ノ如ク大地ヲ歩マネバナランノデアル

諸君ハ宜敷ク一身ヲ捨テ、自他一切ノ事ニ当ルベキデアル進ンデ前衛デアラネバナラヌ奮進起ツテ爆弾ヲ抱ル丈ケノ覚悟ガナケレバナラン斯クナッタコトヲ私ハ之等ノ人ニ説キ聞カセルニ至ッタノデアリマス過グル昭和七年一月中旬同志古賀ニ会ッタノデアリマス遂ニ天意ハ斯ク突然茨城人ノ前ニ爆弾ヲ置イタノデアリマス既ニ天意デアリマス何ヲ以テ之ヲ人意ト思ハレマセウ省ミマスルニ当時農村ノ実状ト窮迫セル全社会ノ状態トハ一刻ノ寸時モ許サナカッタノデアリマス

救国済民ノ大理想ノ上ニ之ヲ進ムルモノハ民百ニ於キマシテハ吾々ニ於イテ他ニナカッタノデアリマス同時ニ全ク捨テ、省ミザル農村ヲ自他一切ノ為ニ万天下同胞ニ知ラシメル方法ハ斷シ手段ヲ非常ニ求メルト云フ外ニ夫レヲ実行スルモノヲ[illegible]亦吾々ヲ於イテ他ニナカッタノデアリマス誠ニ

時ナリト申ス所以ノモノデ御座イマス茲ニ以フ如ク私ノ思想形態ニ付イテ申上ゲ終ロウトスルニ当リマシテ特ニ一言申上ゲテ置キ度イ存ジルコトガアルノデ御座イマスガ他デモ御座イマセンガ彼ノ政党ニ対シ其ノ非行ヲ訊ス事ヲ致シマシタガ政党ニ属ズル人デモ真ニ救ヒノ至誠ニ燃ユル人ノアルノヲ知ッテ居ルノデアリマス亦之ヲ救ヘントシテ努力シテ居ル人モ決シテ少ナクナイノデアリマス犬養首相ノ如キハ血盟団事件前其ノ罪ハ政党ニアルト述懐サレタノデアル

今回ノ如キコトヲヤッタノハ私ノ精神ハ終始一貫シテ変ルコトハナイ心カラ良イ事ヲ希求シ真心ノ限リヲ尽クシテ私ハ一片ノ私心ナク心カラ自他一切ノ為メニヨリ良キコトヲ願フ以外何ノ望モアリマセン私ノ念願ハ自他一切ヲ救フ求尊心ノ切ナル歎ヒデアリ何モ彼モ又一切ヲ捨テ、捧ゲントスルモノデアリマス

裁判長ハ次回カラ具体的ノ犯罪ニ付イテ訊問スルガ二回位デ終ロウト思フ弁護士ハ十月ニ補充尋問ノ御用意ヲ願ヒタイト述ベルニ　作弁護士ハ一度相談シテカラニシテ貰ヒタイト答ヘ　閉廷

時ニ午后三時二十分　以上

右及申（通）報候也

特高秘第四八一四號

寫

昭和八年十月七日

警視總監藤沼庄平

内務大臣山本達雄殿

各廳府縣長官殿

警保局 8.10.18水

五、一五事件民間側公判状ニ關スル件（第六報）

東京地方裁判所陪審第一號法廷ニ於ケル標記第六回公判ハ本日午前九時四分開廷午後三時二十五分無事閉廷セルカ其ノ状況左記ノ如クニ有之

記

六回

一 日時 十月七日 自午前九時〇四分 至午後三時廿五分

一、場所　前新仝断
一、係判検事　右仝
一、被告人　右仝
一、弁護人（本日出席者）
石川　渉、今村力三郎、稲川龍雄、池田謙太郎、
池田　操、岩松孝雄、花井忠、木村半之助、
杉浦武雄、鈴木多人、森田重次郎、中川孝太郎、
川井金一郎、櫟村廣史、金石一夫、栁木五百次郎、
亀山　要、若井孝太郎、栗原寧之助、山本唯次、
前川盈一郎　深作貞治　藤沼光　小松﨑信
遠藤榮三郎　瀬口正吉　以上二十六名
一、傍聴人
1　一般傍聴人　二七名
2　特別　〃　二〇名

(1

3 家族ヶ　一四名

(二) 一般状況

イ、被告橘孝三郎以下十七名ハ押送自動車三台ニ分乗午前八時十二分市ヶ谷刑務所ヨリ東京地方裁判所構内假監到着、法廷ノ内外出入口、地下道何レモ制服憲兵、警察官、廷丁等ニテ嚴重警戒傍聴者ノ身体捜検等従来ノ通リナレ共本日ハ前夜来ノ雨天ノ為メ傍聴者ノ如キモ殆ンド平日ノ半数程度ニテ閑静ナルモノアリ

(三) 法廷内ノ状況

イ、午前八時五十分頃ヨリ各弁護人入廷、仝八時五十八分神垣裁判長以下各判検事入廷正九時ヨリ各被告人並ニ傍聴人入廷着席ス

ロ、被告人中「池松武志」ノ外何レモ黒ノ紋服ニテ

出廷シ開廷前メモ鉛筆ヲ手交サルルコト及
速記者二名ヲ附スルコト従前ノ通リ
3 午前九時四分開廷本日ヨリ犯罪ノ事實審理
ニ入ルニ先立チ被告橘孝三郎ハ前回迄ニ為シタ
ル陳述ニ就キ更ニ「農村青年ノ思想」ノ点ニ就
イテ補足陳述ヲ為ス所アリ夫レヨリ引續キ本
件犯罪事實ノ訊問應答ニ入ル
4 午前十時二十五分休憩仝十時五十分再開引續
キ橘ノ訊問續行
5 午前十一時五十五分一時休憩午後一時再開右
仝断
6 午後二時二十五分一時休憩仝二時四十八分再開
右仝断此ノ時裁判長ヨリ一時休憩ヲ宣セラルヽ
ヤ弁護人深作貞治起ッテ裁判長ニ向ヒ

「橘ニ對スル犯罪事實ノ御訊問ハ二回ノ御豫定ト承ッテ居リマスガ相當疲レテ居ルラシイノデスカラ今日ハ是レデ閉廷シテ此ノ次ニシテ頂キ度イト思ヒマスガ、我々モ色々ト重要問題デ打合セモアリマスカラ」ト閉廷シ希望スル處アリシモ

裁判長ハ

「イヤ今少シテ直ク終リマスカラ、ソシテ後ハ十日ニ開廷スルコトニシテ居リマスカラ」トテ許容セズ

夕午後三時過キニ到リ裁判長ハ間モ無ク閉廷セムトスルヲ見テ亀山弁護人起ッテ裁判長ニ向ヒ

「被告ニ對シテ色々質問ガアリマスガ暫時打合セ度イト思ヒマスカラ十五分間程御休憩ヲ御願致

シ度イト存ジマスガ―」トテ暫時休憩方願ヒ出ツ
レハ裁判長ハ
「夫レデハ被告ハドウ致シマスカ―」被告等ト打合セ
タイト云ハルルノデスカ―」
弁「イヤ私達カ廊下ヘテモ出テ打合セ度イト思ヒマス
カラ此ノ侭テ結構デス
オ「夫レデハ一時退廷致シマセウ
トテ裁判長以下又ハ判検事三時〇七分一時退廷
スレバ各被告等ハ其ノ後トシテ弁護人等一同退廷
入口ノ廊下ニ出デ協議約五分ニシテ復席スレハ裁
判長等モ直チニ入廷着席ス而シテ亀山弁護
「人再ヒ起ツテ裁判長ニ向ヒ
「被告ニ質問致シ度イ事ガ二点アリマスカラ御
許シヲ願ヒ度イ其ノ他ノ事ハ全部十日ニ留保

Mimeographed document.

"Records of Public Hearing of the May 15th Incident",

by Commissioner of Metropolitan Police Board,

1933-1934

#B-12

致シマス、夫レハ只今裁判長カラ御讀聞ケノ豫審調書ノ内容ハ被告ハ率直ニ認メマスト云ハレタ様デスカ陸海軍ノ軍人等ト共ニ起ッテ就イテ被告ガ軍人等ヲ犬死サセ度クナイカラ起ッタト云フニ到ッタ点ヲハッキリト伺ッテ置キ度イ最モ重大ナ点デスカラ―」ト半バ被告ニ對シテ質セバ裁判長ハ

オ 「其レテハ私カラ申上ケマスカ私ハ其後ノ橋ノ認識ガドノ辺マデアッタカノ点ヲ訊ネテミタガ橋ハ只莫然ト認識シテ居タニ過キナイト云ッタ丈ケテセウ！」要スルニ私ガ橋ニ聴イタノハ十五日ニ是レ丈ケノ事ガアッタネト云フ事ヲ讀ンデ聞カセテ認メサセタニ過ギナイノデス」

弁 判リマシタ夫レ丈ケナレバ結構デス 今一ツハ満州

行キノ目的ニ就イテ申述ベラレタ様デハアルガ今
一應ハツキリト尋ネタイ
ト橘被告ニ尋ヌレバ橘ハ
ヒ　私ハ王道國家建設ノ滿洲國ヲ開發シ度イ心算
デ行キマシタ
弁　夫レデハ大体今回ノ事件ガ成行スルト見込ミヲツケ
テ行カレタノデスカドウデスカー
ヒ　御尋ネノ成功ト云フ御言葉ノ意味ガ奈辺ニ在ル
カ一寸判リ兼ネマスガ私ハ元ヨリ事ノ成否等眼中
ニ無カツタモノデス
ト答フレバ此ノ時裁判長ハ更ニ亀山弁護人ニ向
ヒ
オ　橘ノ云フ意味ハ今度ヤツタ事ニ就テハ要スルニ社
會ニ對シテ一ツノ衝動ヲ與ヘルコトガ目的ダツタノ

デスヨ
ト一言注意スル處アリ橘被告ハ其ノ後ヲ享ケ

ヒ　私ハ自分カ成功スルコトハ確信シテ居ルモノデス

弁　次ハ被告ハ満洲ニ行ッテ再擧シ図ル目的ダッタ様ニ聞キマシタガ此ノ点ハドウデセウ

ヒ　再擧ト申シマシテモ…私ノ心中ハ複雑デスカラナー…夫レガ目的デハ無カッタノデス王道国家建設ニ図ル開發ト云フ様ナ事ガ目的ダッタノデス

トテ裁判長被告、弁護人ノ間ニ問答アリタルガ裁判長ハ右ヲ以テ應答ヲ打切ラシメ

オ　夫レテハ今日ハ是レテ閉廷シテ次回ハ来ル十月十日午前九時カラ開廷致シマス

ト閉廷ヲ宣シ一同無事退廷ス時ニ午後三時二分

十五分ナリ

一、被告橘孝三郎ニ對スル犯罪事實訊問ノ概要

オ前田述ベタ事ノ外何カ云ヒ殘シタ事ハ無イカ

ヒハイ其ノ一ツトシテ農村青年ノ思想ノ点ニ就テ具体的ニ申シ上ゲマス私ハ前田モ農村青年ハ思想的ニモ奴隷的ダト云フ言葉ヲ發セザルヲ得ナカツタカ夫レハ何カ故ニカニ就テ一言申上ゲタイ夫レニ就テ私ノ体驗ノ一般ヲ申上ゲマス

今迄ノ農村青年達ハ何等取ルニ足ル様ナ自覺ガ無カツタノデ私ハ前申シ述ベタ様ナ方法ヲ以ステ彼等トノ接近策ヲ講ジ以テ其ノ啓蒙運動ヲシヤツテ参リマシタ當時農村青年ニ對スル運動トシテハ希望社運動トカ或ハ是レニ對スル無産派運動ノ二ツ位ニ過ギマセンデシタガ両方トモ駄

目デス無産運動即チ無政府主義運動ト称スベキデ多少デモ素質ノ良イ者程ソンナ方面ニ走ッテ了ヒ所謂出来損ナイトナッテ了フノデス是レハ最モ悲シマザルヲ得ヌ現象デス

希望社運動ノ方ハドウカト申シマスト茨城縣等デハ縣ノ學務部ヤ小學校ノ教員迄ガ音頭取リデヤッテ居リマシタ、尤モ後藤靜香ノ主張ハ勿論ヨイニハ極ッテ居ルガ是等ハ村ノ所謂穏健ナ模範青年子女達丈ケヲ集ル様ナモノデ夫レニ希望社発行ノ雑誌ノ輪讀ヤラ或ハ幻燈會等開

（次葉ニ）

信スル、而シテ其結果ハ計ラザル悪弊ノ生ゼシ實例モ一二ニシテ足リマセン如斯状態デハ到底眞ノ啓蒙運動トハ申サレナイノデアリマス私ハ次ノ様ナ一ツノ実例ガアリマス私ガ村夫子然タル服装ヲシテ或ル講演會場ヘ出席致シマシタソシテ演壇ニ立ッテ一席弁ジマシタガドウモ聴衆ガザハザハシテ居テ幾ラヤッテモ本氣ニナッテ聴コウトシナイノデ遂ニ話モ何モ出来ナイ始末デス ソコデ私モ色々ト考ヘタ揚句遂ニ百二十円ヲ奮発シテモーニングヲ一着拵ヘタモノデス、而シテ其ノ次ノ講演會ニ行ッテ演壇ニ立ッテ見マスト此ノ前ト打ッテ変ッタ非常ナ静粛サデス ドウデス識ニ驚キ入ッタ事実デアリマス ソコデ私ハ如斯ハ何トシテモ農林青年ガ眞実ニ眼醒メテ居ラヌカラデアルカラト思ッタノデ声ヲ大ニシテ彼等ノ蒙ヲ啓クベク一席弁レ立テテミマシタガ此ノコトモ受ケ入レナイノデス 云フ事ガ

判ラナイラシイノデス徳川三百年ノ圧搾政策ヲ説イテ
聞カセテモ却ッテ一種ノ反感サイ抱ク様ナ有様デシタ
彼様ナ事ハ昭和四年ノ暮レカラ五年ノ初メ頃迄ニ私ガ
屡々遭遇シタ事実デアリマス　其後私ハ実際農民運動ニ
携ハラネバナラヌ様ニナッテ終ヒマシタガ次ハ食物ノ事
ニ就テ私ノ塾ニ就イテ具体的ニ一言申シ上ゲマスト私ハ何
時モ土曜日ニハコンパデ一人前五銭宛デシタガ其ノ内ニ
色々ト内部カラ不平ガ起ッテ参リマシタ愛郷塾ハコンパ
塾ダ等ト云フ者ガ出ル様ニナッタモノデス大体私ノ塾ニ来
テ居ル青年達ハ村デモヨイ方ノ家庭ノ青年達許リデスガ
夫レデ居テ左様ナ状態デス　ソコデ私ハ五銭ヲ三銭ニシテ
足ラヌ処ハ私ガ補フ事ニ致シマシタ塾ノ内デハ塙ガ一番ブ
ルジョアデスガ他ノ者モ皆相当ノ家庭ノ者デス我ラノ刑
務所ノ飯ハ恐ラク家デ喰ベテ居タ飯ヨリハ上等ノ筈デス

青年達ハ私ノ塾ヘ来テ初メテライスカレート云フモノガアル事ヲ知リマシタソシテ洋行前一度皆デ喰ベマシタガアレガ恐ラク最初デ且ツ最後ダツタノデセウ况ンヤ鰻丼ナンカ刑務所ヘ入ツテカラ風見サンノ差入レデ一度喰ツタ事ガアル丈ケデス

以上云ヒ残シテ居タ点丈ケヲ申シ上ゲマス

右ヲ以テ補足陳述ヲ終リ引續イテ本日ヨリ本件犯罪事実ノ訊問陳述ニ入ル

裁　デハ是レカラ具体的事實ニ就イテ訊ネルガ昭和六年三月頃ノ一部ノ陸海軍将校ト民間側トノ所謂三月事件ニハ関係ナカツタカ

被　何モ関係ハアリマセン

裁　ソレデハ昭和六年八月二十六日青山ノ日本青年館ニ於ケル會合ニ出席シタ事ハ間違ヒ無イカネ

被　間違アリマセン

裁　誰レカラノ通知デ出席シタカ

被　古内栄司カラノ通知デ出席シマシタ

裁　ドンナ風ニシテ通知シテ来タカ

被　夫レハ只電話デ廿五日ニ青年館ニ来テ呉レトノ事丈ケデ別ニ詳シイ事ハ聞キマセンデシタ

裁　後藤ト一緒ニ上京シタカ

被　ハイ後藤ヤ小沼ト一緒デシタ

裁　夫レカラ何処ヘ行ッタ

被　本郷西片町ノ井上ノ宅ヘ行キマシタ

裁　其処ニハ誰レガ居タ

被　古内、小沼、海軍ノ古賀、三上、山岸、藤井ニ四元等デシタ

裁　川崎長光ハ

被　一緒ニ居リマシタ

裁　黒沢大ニハ

被　居リマシタ

裁　村山ハ

被　居リマシタ

裁　井上宅デノ廿五日ノ話ノ内容ハドンナモノダッタ

被　別ニ大シタ話モアリマセンデシタガ私ガ農村問題ニ就イテ
海軍ノ二、三名ノ者ニ話シマシタ

裁　後藤ハ何ンデ同伴シタカ

被　古内ガ電話デ出来得レバ後藤モ同伴シテ来テ呉レト
云ッテ居タノデ後藤ハ何モ知ラズニ一緒ニ来マシタ

裁　二十六日ノ青山ノ青年館ノ會合ニハ誰レガ出席シタ

被　井上、西田、陸軍ノ菅波中尉等デ海軍ハ前記ノ面々デ
シタ民間側デハ前日ノ通リデス

裁　協議サレタ内容ハドンナモノダッタカネ

被 内容ト云フ程ノモノモアリマセンデシタガ西田ガ状勢ハ既
ニ切迫シテ居ルカラオ互ニ結束ヲ堅クセネバナラヌトカ
聯絡ニハ特ニ注意セネバナラヌコト井上ガ民ヱ遊撃隊
ノ大将トナツテ聯絡スルト云フ様ナモノデシタ

裁 茨城縣下ニ支部設置ノ話ハ出ナカツタカ

被 ソンナ話ハアリマセンデシタ

裁 被告ハ開會前ニ長野縣人ノ若松清次ト云フ者ト會ツタカ
ネ

被 ハイ会ヒマシタ

裁 ドウ云フ関係デ知ツテ居タカ

被 夫レハ小沼ガ知ツテ居ルト云フノデ一度私ニ対シテ彼ノ
認識程度ヲ試験シテ呉レトノ事デシタノデ会ヒマシタ

裁 其ノ結果ハドウダツタ

被 結果ハ到底問題ニナリマセンデシタノデ其ノ侭ニシテ終

ヒマシタ

裁　会合後ハドウシタカ

被　川崎君ノ案内デ権藤先生宅ヲ尋ネマシタ　私ハ予テ古内君カラ権藤先生著ノ「自治民範」ト云フノヲ借リテ読ンデ居リマシタガ其ノ中ノ大化ノ革新等ノ点ニ対シテハ実ニ偉イト思ッテ居タ処テスレ幸ヒ川崎君ガ一緒ニ行コウト云フノデ尋ネマシタ

裁　二十六日ノ晩新宿ノ宝亭デノ宴会ニハ出席シタカ

被　権藤先生宅ニ行ッテカラ出席シマセンデシタ間モ無ク帰郷致シマシタ

裁　二十六日ニ陸海軍ノ将校達ト初メテ会ッ夜ダネ

被　ソウデス

裁　昭和六年十月頃陸海軍将校等ノ所謂十月事件トハ関係無カッタカネ

被　少シ許リハ関係ガアリマシタ

裁　夫レハ被告ガ予審廷デ申述ベテ居ル程度ダロウネ

被　ハイソノ程度テスガ少シク申シ上ゲマスレバ陸海軍ノ同志カラハ「事情切迫シテ居ルカラ井上ヲ中心トシテ愛郷塾カラモ五名程出シテ呉レトノ事デシタノデ塾カラ後藤横須賀塙、矢吹奥田ノ五名ヲ出ス事ニ致シマシタソシテ学生服等ヲ用意シテ準備致シマシタガ其ノ程度デス

裁　ソシテ其ノ計画ハ

被　結局モノニナラズ終ニナリマシタ

裁　夫レハ何時知ツタ

被　十六日井上宅ニ立寄ツタラ古内カラ簡単ニ聞キマシタノデ其ノ事ヲ塾生ニモ傳ヘマシタ

裁　堀川ニモ傳ヘタカ

被　ハイ傳ヘマシタ

裁 事件ノ内容ニ就テハ詳シク知ラナイカ

被 ハイ詳シクハ存ジマセン

裁 被告ハ昭和六年十二月二十九日権藤宅ノ忘年会ニ出席シタネ

被 ハイ出席致シマシタ私ハ愛国勤労党ヲ尋ネル時ハ序ニ権藤先生宅ヲ尋ネテ居タモノデスガ当日行ッタラ偶然デシタノデ出席致シマシタ

裁 ドンナ顔触ガ来テ居タカネ

被 井上、西田昇ガ中心人物ダッタト思ヒマスガ陸海軍ヤ民間側ノ面々モ見ヘテ居リマシタ

裁 中村中尉ハ居タカ

被 居リマシタ其ノ時ガ初メテデス其ノ時ニハ別ニ国家革正昇ノ話ハ致シマセンデシタ

裁 昭和七年一月中旬海軍ノ古賀中村両中尉ガ愛郷塾

ニ来テ一晩泊ツテ行ツタ事ガアツタネ

被　ハイアリマシタ夫レガ初メテデシタ塾デハ茶話會ヲ催シマシテ其ノ時中尉ハ現下ノ国状ノ悲シムベキ状態等ヲ述ベテ塾生ヲ激励シタ程度デシタガ革新ニ就テノ相談等ハアリマセンデシタ

裁　昭和七年一月二十二日土浦ノ花月デ被告ハ農村向題ニ就テ演説ヲシタ事ガアルカネ

被　ハイアリマス

裁　其ノ時ノ出席者ハ

被　主催者ノ尾園大将、古賀、中村両中尉菜谷忠助、教官小林憲兵等十六七名デシテ其ノ演説ノ内容ハ満蒙又農村向題デ満蒙向題ニ就テハ現在日本ノ腰抜ケタル農民ヲ移住ナンカ出来ハヤヌ先ツ以テ農民ノ腰ヲ据ヘテカラデナケレバ駄目ダト云フ様ナモノデシタ

裁　昭和七年一月下旬頃井上が愛郷塾ニ来タ事ガアル様ダガドンナ要件デヤツテ来タカネ

被　ハイ夫レハ井上ハ当時建康ヲ害シテ居タノデ暫ク静養シタイシ且ツ金ニモ困ツテ居ルカラト云フ事デシタ

裁　被告が代議士ニ立候補スル様ナ話ハ無カツタカ

被　ソンナ話モアリマシタが私ハ勿論ソンナ事等念頭ニアリマセンデシタ

裁　井上ハ幾晩泊ツタ

被　二晩三日滞在シタト思ヒマス

裁　其ノ向ドンナ話ガアツタ

被　別ニ是レト云フ様ナ話モ無ク国家革新ニ就テノ相談ナンカアリマセンデシタ

裁　其ノ向ドンナ人ガ尋ネテ来タ

被　其ノ向井上ハ古川檜山等ト面會シテ居タ様デシタ

(以下次葉)

オ、ソレデドンナ話ヲシテ居ツタカ？

ヒ、私ハ當警察ニ居リマセンデシタノデドンナ話ヲシタカ
ハ判リマセン、

オ、昭和七年ノ二月カラ三月ニ亘ツテ小沼ガ井上準之助ヲ菱
沼ガ団琢磨ヲ暗殺シタ事件ニハ干係ナイカ？

ヒ、アリマセン

オ、被告ハ最初誰レカラ襲撃計畫ニ参加ヲ申込マレタカ

ヒ、海軍ノ古賀清志カラデス　七年ノ三月塾デ申込ヲ受
ケマシタ

オ、其ノ内容ハ

ヒ、井上氏ハ一人一殺主義デアツタガ既ニ終ツタ我々ハ是非
共彼ノ後ヲ継イデヤラネバナラヌ　就テハ我々ハ民間側デ
ハ先生ノ愛郷塾一派ヲ期待シテ居ルカラ是非頼ムト／
云ツテアリマシタ

大、被告ハ其ノ時頼ムト云フ言葉ノ意味ハドウ解釈シタカ

ヒ、非常手段ノテロヲヤルコトダロウト思ヒマシタ即チ財閥ヤ特権階級ニ対スルテロダロウト解釈致シマシタ

大、其ノ時古賀ハ中村中尉モ参加シテ居ルト言ハナカッタカ

ヒ、言ヒマセンデシタ

大、其ノ席ニハ誰ガ居タカ

ヒ、誰モ居ラレマセンデシタ

大、被告ハ其ノ事ヲ後藤ニモ伝ヘテ参加スル様ニ話シタカ

ヒ、ハイ翌日話シマシタラ参加スルコトヲ承諾致シマシタ

大、林モ一緒ニ其処デ話シタノカ。

ヒ、ソウデハアリマセン。

大、三月廿五日後藤カラ忠告ヲ受ケタト言フノハ

ヒ、古賀ガ中村ニ計画中ダ相ダガ警戒ガ厳重デ今

ハ云ノ将校デハ無イ、ヤレハ一網打盡ニヤラレルシ恐ソノ
ミテモ極刑ニ処セラレルノハ確カダ、古賀ヲ止メタカ御会
キカナイ、此ノ上遅レヲ止メルノハ君ヘノ命ニハ無イカラ
是非ト云フヨリデミタノデ私ハ早速土浦ノ山水閣ニ行ツ
ツテ古賀中尉ニ會ツテ云ツタリ説キマシタガ古
賀ハ頭カラ一笑ニ附シテ ソンナ老人ノ云フヨウナコトカ
オ手ニ乗ツテ居タ目ニハ何ニモ出来ハセヌト云ツテ居リマシ
タ。其ノ時マデ問題ハ私程具体化シテハ居ナカツタカラ
ミタ私達ニハ出ヤラレテ居リマセンデシタ

六、計画中ニハドンナ私ガ含マレテ居ルダロウト思ヒマシタカ

七、私ハ当時首相官邸、内大臣官邸、三井、三菱等ハ襲撃スルダロウト想像シテ居リマシタ

六、手榴弾ヤピストルヲ使用ノヨウハ

七、金銭ニ困リマセンデシタ

六、変電所ノ襲撃ハ

七、変電所襲撃ハ私ガ山水閣デ計画致シマシタ
事態ニ到ッテハ我々ハ萬難ヲ排シテモ陸海軍ノ
青年将校達ノ計画ヲ援ケネバナラヌト考ヘマシタ
揚句私ガ隠宅ノ中デ不図考ヘツイタノデアリマスガ彼
ノ不夜城ヲ誇ル帝都ノ夜ヲ仮令一二時間デモ暗
黒化シタラ志気ヲ鼓舞スル意味ニ於テモ或ハ又犠
牲ヲ少ナクスル上ニ於テモ確カニ効果的ダト考ヘタ
カラデアリマス

六、後藤ニモ其ノ事ヲ話シマシタカ

七、後藤ハ毎晩私ノ帰ル迄山縣方ニ待ッテ居ルノガ例
デシテ其ノ晩モ起キテ居リマシタノデ其ノ事ヲ話シマ
シタラ後藤ハ一寸考ヘテ居リマシタ

六、林ニハ話サナカッタカ

七、林ニ云ヘニハ話シマセンデシタ

六、昭和七年五月廿四日被告ハ後藤ニ塩川秀雄事ヲ参加セシムル様話シタ事ハ無イカ。

七、夫レハ五月廿五日デシタ残サレタ同志トシテ参加セシムル心算デ一応ノ話ヲ致シマシタ

六、昭和七年五月廿八日塩川秀雄ト愛郷塾デ会ッタカ

答ノ模様ハ

七、夫レハ今迄ノ計画ノ進行状態ヲ話シ何時デモ起テル様ニ用意丈ケハシテ置ク様ニ、ソシテ黒岩、川崎等トノ聯絡ノ件ニ就テモ話シマシタ勿論塩川モ参加セシムル考ヘデシタシ塩川モ承知シタト言ッテ居リマシタ

六、其ノ答ヲ同席シタ者ハナカッタカ

七、アリマセンデシタ

問、昭和七年四月ノ初メ後藤ト共ニ土浦ノ山水閣ニ古賀中尉中村中尉ヲ訪問シタノハ

答、古賀カラモ話ガアリマシタノデ行ツテミマシタ古賀カラ革新ニ就テ内容ノ話ガアリマシタ陸軍ノ士官候補生十一名程ト村山、山岸ノ両名ガ横須賀ニ転勤シテ来タコト三上ガ手榴弾ヲ入手シタコト等ノ話デシタ

問、其ノ際軍資金ノ話ガ出テ来週ノ月曜カ火曜ニ取リニ来テ呉レトノ事デアツタノデ後藤ガ受取リニ行クコトニナツタノハ間違ナイカ

答、間違アリマセン

問、其ノ金ハ何処カラ出ルト云ツタカネ

答、其ノ金ハ大川周明カラ出ルトノ事デアリマシタ

問、ドウ云フ事情デ大川周明カラ出ル様ニナツテ居タカ

匕、ソノ事情ハ知リマセンデシタ

大、古賀中尉ニ対シテ塾生ノ誰カノ話ヲシタカ

匕、ハイ、致シマシタ　変電所襲撃ノ事モ話シマシタ　一同賛成シテ居リマシタ

大、昭和七年四月二日ノ晩塾ノ部屋デ被告ト後藤、林ノ三名デ塾生ノ撰定ヲシタ相ダガドウダッタ

匕、ソンナ事ハナンカアリマセン

大、ソレハ誰ガ参戦スルノハ何時決メタ

匕、私ハチャント腹ノ中デハ決メテ居リマシタ　古賀ノ話ヲキイタ時既ニ動カスモノ、出来ヌモノヲ知ッテ居タノデスカラ古賀ハ塾ノ方ハ君ニ任セルカラト申シマスノデ後藤ニハ簡単ニ其ノ事ヲ話シタ丈デシタ　私ハ橘、矢吹、大貫等一人一人部屋ニ呼ンデ話シマシタ　大室ハドウスルカト三人ノ話ガ出タノデ古瀬、結果大室モ

賛成致シマシタ此ノ決定ニハ林ハ関係アリマセン後藤
ハ其ノ後承諾シマシタ
強ハモ元々居ノ内算デ熟ニ来テ居タノデスカラ私カ
ラ話シテ参加サセルコトニ致シマシタ

大、權絶望ハドウデシタ

ヒ、權絶望ニハ一応ノ話ハ致シマシタ

大、寺内ハ

ヒ、寺内ハ入営中デシタノデ出張、大演習ガ隊ニ帰ネ
ニ帰リテ話シテ参加サセルコトニ致シマシタ

大、宇垣ハ

ヒ、四月五日ノ私ノ御幹部會デ後継者トシテテストシマセテ
其ノ意思ヲ確メマシテ宇垣モ積極的ナ返事ヲ
致シマシタ

大、去レデハ第一案ノ件ト邀トハ如何ナノデスカ

七、ソウデスカラ実ハ今申シ述タ様ナ次第デス

六、夫レデハ被告ハ何時頃カラ塾生達ニ対シテ革新思想ヲ注ギ込ンデ居タノカ

七、夫レハ現代ノ世態革新ノ必要ヲ痛感シテ居ル者ハ私一人デハアリマセンカラ私ハ塾生達ニ対シテハ常ニ我々ハ須ラク手晝ヲ掴ム手デ国家ノ為ニ必要ナ場合ハ弁纏弾モ投ゲネバナラヌト教ヘテ居マシタ

右ヲ以テ裁判長ハ一寸休憩ヲ宣シ（午前十時廿五分）午前十時五十分再開引続キ橘孝三郎ノ訊問ニ入ル

六、引続イテ訊ネルガ被告ガ堀川秀雄ニ対シテ襲撃計画ヲ知ラセタノハ四月五日ダッタノカ

七、ソウデス内容ハ四月一日土浦デ古賀中尉カラ聞イタ話ノ内容ヲ話シマシタ

六、昭和七年四月十二日後藤ト二人デ山水閣デ古賀中尉

ヒ、カラ二為ル金ヲ要求シタコトガアルネ
オ、ハイ有リマス、
ヒ、其ノ金ハ何処カラ出タカ
オ、夫レハ大川周明カラ出タモノデス ソシテ此為金ハ私ガ
預ッテ後ノ為金ハ後藤ニ預ケテ置キマシタ
ヒ、昭和七年四月十六日古賀中尉ガ愛郷塾ニ来タ時ニハ
誰レガ面會シタカ
オ、私ガ會ヒマシタ
ヒ、其ノ時ノ話ノ内容ハ
オ、夫レハ前ヨリハズット具体化シテ海軍側七名陸軍側十
一名ノ外更ニ在郷ノ青年將校等モ參加スル手榴弾
モ急々入手シタカラ議會 三井 三菱 日本銀行等襲
撃計畫ニ就テノ話デアリマシタ ソシテ尚愛郷塾ノ塾
生達ハ變電所ヲ襲撃シテ帝都ヲ暗黒化スル計畫デ

アリマシタ

大、其ノ当時臨時議会ノ傍聴席ニ混入シテ爆弾ヲ投ジヨウト思ッテヰタ傍聴券ヲ二、三枚都合シタイ、ソウスレバ主義者ハ本ガ出セナイカラ武器ガ本ノ[illegible]話ガアッタ様ダガ間違ヒナイカ。

ヒ、ハイ間違ヒアリマセン、

ホ、爆弾入手ニ就テ秋夫ヨリ一戸借リルコト毎週木曜日ニ土佐ノ山水園デ集会スルコトヲ話シタ様ダガ間違イ無イネ、

ヒ、間違ヒアリマセン、併シ私ハ議会ニ爆弾トハ一寸考ヘサセラレマスノデ古賀ニ反省ヲ促シマシタ、就中ニモ当国ノ士モアリ且又国民ノ手前モ考ヘネバナラヌ、自首能[illegible]撃モ安易ナ狙撃トシテノ手段ドウカ、東京日々ニ在報実ハ大新聞ノ輿論ノ機関紙カドウカトノ話ヲ致シマシタ、

五、夏ノ休暇中私ハ塾生ニ会ツタカ

会ヒマシタ

六、ドンナ話ヲシマシタカ、

七、お前ノ話モアリマセンデシタ喰ベタ事モ無イ様ナ上等ノ

中華菓子菓喰ベサセ貰ヒマセンデシタ　略洋菓、

問 被告ハ四月十七日ニ上京シタネ

被 上京シテ林ト二人デ家ヲ探シテ歩イテ雑司ヶ谷ニ一軒借リマシタ
ソレデ四月十九日又上京シ其ノ家ヲ見テ帰途林ト二人ニ土浦ノ
山岸宏ニ古賀中尉ノ変名ヲ尋ネマシタ

問 変名トモ居ッタカ

被 古賀ハ居ナカッタノデ中村中尉ニ会ヒマシタ

問 其ノ時ノ話ハ

被 古賀ノ出シタ手紙ガ同志ノ手ニ入ラズ相当ガ或ハ其ノ筋ノ
手ニ没収サレタノデハナイカ―ト云フ意ヲ非常ニ心配シテ居
リマシタ其ノ席ニハ奥田モ居ッタト思ヒマス
帰ッテ後藤ト家ノ話ヤ中村トノ会見ノ話等致シマシタ

問 四月十六日塾生ニ霞ヶ浦航空隊ヲ見学サセタ話ヲシタ
事ガアルカ

被 ハイ後藤矢吹塙[illegible]以上デシテ大シタ話モアリマセンデシ

タカ協議カ軍資金トシテ古賀カラ五百円ヲ貰ッテ来マシタ
大川周明カラ出タ金デス

検　昭和七年五月廿七日頃協議ト共ニ山形家ニ古賀中村両中尉ト居ラレタ様ダガ其ノ内容ハ

被　陸軍士官学校生徒カ四月二十日頃御ニヤメテ五月十四日ニ決定シ今十日ニハ通知又同士ノ蹶起ヘ資金ニヨリ其外ガ何タカ其ノ筋ニ計画ガ漏レタカノ様ナ気ガスル今ノ様子デハ到底議会迄待テヌカラ五月十四、五日頃ニ断行シテ首相官邸襲撃ニ決メタ其ノ他ハ前会様新聞社襲撃等モ見合セル事ニスル――トノ話デアリマシタ尚奥田秀夫池松武志ノ両名モ参加セル事ニシテ襲撃場所ノ出入ニ其他ノ注意方ヲ命スル様ニ話シマシタ

検　其ノ際西田税ヲ暗殺スル話ガ出タカ――

被　西田ハトウモ積極的ニ我々ノ計画ヲ妨害シテ居ル様ダカ

陸軍側ニハ海軍側ガ妨害シ海軍側ニハ陸軍側ガ妨害シテ居ルト宣傳シテ居ル我々ノ計畫ハドウモ西田ガ漏ラシテ居ル様ダ此ノ儘デハ同志トシテ先頭ニ立テヽ来ナガラ斯クテハ獅子心中ノ虫ダ宜シク精算スベキデアル就テハ彼レト面識アル井上ノ方ノ川崎長光ヲシテ之ヲヤラシムル様勧メテ呉レトノ事デアッタノデ承諾致シマシタ

犬　西田ハ金銭的ナ人ダッタカ

被　ハイ私ハ只権藤先生宅ノ宴会ノ席デ私ノ手ヲ握ッテ「昨晩私モ大事ヲ決行スル心算ダ後ハ貴方ニ御一任ス」ルトノ話ダッタノデ私モ非常ニ信頼スル様ニナッタ丈ケデス

犬　ドウシテ荒木貞夫ヲ襲撃スル計畫ヲ樹テタカ

被　夫レハ特権階級政党財閥ト一体ノ元凶タル偶像上精算スル必要ヲ感ジタカラデス

文　内大臣安部ハ

被　餘リ深イ思慮ハアリマセンガ所謂君側ノ奸ト称セラレテ
居ルシ特権階級ノ代表者トシテ右翼カラ射撃ガヤルト云
フノデ私モ是認シテ居リマシタ

文　政党本部ハ

被　國民ヲ覚醒セシムル為メノ第一段トシテ計画シマシタ

文　警視庁ハ

被　警視庁ハ治安ヲ保ツ擽外カラ本来ハ穏便デシタカ今ノ実
際ニ就テ見ルトソウデハアリマセヌシ殊ニ地方ノ選
挙ノ際ノ如キハ恰カモ政党ノ参謀本部ノ如キ観ガアルカラ
デアリマス其政党ニ対シテハ警告ヲ与フル為最モ近ノ都設
代ル因ツテ今ノ禍根ヲ絶ツベクヤル考ヘデアリマシタ

文　三菱銀行ハ

被　財閥ノ代表的ナモノデスカラ

問 党本部ノ襲撃ハ党首ガ居ル事ガ判ツテ居タカ

被 ハイ夫レハ十五日朝ニテ党首ガ居ルカドウカモハツキリ判リマセンデシタカ居レバヤル考ヘデシタ銀行其ノ他ノ場合ニシテモ亦然リデス 併シ我々ハ一意ニ因ツテ動ク者デアル帝都ヲ騒カス事ノ罪モ夫レニ因ツテ多少償ハレルト思ツテ居リマシタ

問 其ノ結果トシテ戒厳令ガ布カレタ結果ハドウナルト考ヘテ居タカ

被 ハイ夫レハ結局深クハ考ヘテ居リマセンデシタカ心ノ内デハヨシヤ軍政府ガ樹立サレルダラウト思ツテ居リマシタ

問 今ノ内容ヲ塾生ニ話シタカ

被 ハイ夫レハ十四日ノ晩ニ話シマシタ

問 林ニモ話シタカ

被　林ニモ話シマシタ大体襲撃ノ目的ト実行ノ動機等デアッタ
　　ガ西田税暗殺ノ点ハ話シマセンデシタ

戈　ドウシテ西田ノ事ハ話サナカッタ

被　私ハナルベクコンナ事ハ必要以外ニ話サヌ方ガ塾生ノ為メト思
　　ッタカラ話シマセンデシタ

戈　変電所襲撃ハ

被　変電所襲撃ニ就テハ先ツ内容ヲ知ル必要ガアルト云フノ
　　デ見学シ様ト云フ様ナ話ヤ変電所襲撃等ノ話モアリ
　　マシタ

戈　柳橋ニ話シタ事ハ無イカ

被　アリマス全人ハ常ニ満洲ニ行ッテ骨ニナリ度イト云フ事ヲ
　　云ッテ居リマシタノデ私ハ何モ骨ニナルノハ満洲ニ限ッタ訳
　　デハ無イ国家ノ為メナラ我々ト運命ヲ共ニスルノモ全シ事
　　ダト思ヒマシタノデ橘孝ニ電報デ呼寄セサセテ山田ノ関

ニ逢ヒマシテ色々ノ認識程度ヲテストシマシタラ問題ナリマセン

ソノ點ニ関シテ終ヒマシタ

文　昭和七年四月廿二日東京総変電所ヲ見学シタ事ガアルネ

被　見学シマシタ塾生ノ者ノ手散六年教務モ一緒ニ参リマシタ参加者以外ノ者達同伴シテヲリマシタノハ参加者ダケデハ穏カナラヌシ夫レ許リデハ無ク一同ヲ伴ヒテ散歩シテ洋食ノ一ツモ喰ベサセ度イ考ヘカラ一緒ニツリキマシタガ橘ハ陰度當日宣上様恵デ参加シマセンデシタ

文　見学ノ模様ハドウダッタカ

被　技士サンガツイテ呉レテ詳細ニ説明シテ呉レマシタノデ色々ノ結果我々ノ目的タル破壊ノ為メニハ所揚ポンプヲヤレバ駄目ニナル事ヲ拝見致シマシタ夫レカラ帰リニ常盤銀ニ立寄ッテ皆ニ洋食ヲ喰ベサセマシタ

文　川崎長光ニ本橋参加方ヲ求メタ事ガアルカ

被　私ハ責任ガアリマスノデ直接話ス必要カアリマシタガ十八日
ハ話合ノ機会ハアリマセンデシタノデ十八日ニハ第二十六日ノ内容
ヲ話シタニ過ギマセンデシタ
キ　後藤ハ川崎長光ヲシテ西田税ヲシテ暗殺セシムル様
ニ勧メハセナカツタカ
被　記憶ハアリマセン直接堀川ニ二十四日ノ山岸ノ閣ノ
話ヲシテ川崎ニ頼ンデ貰フ様西カラ話シテ呉レ
ト話シタラ大体承知シテ呉レマシタ
求　二十一日ノ話ノ内容ハ
被　廿一日ノ話ノ内容モ話シマシタ―襲撃計画ノ内
容如キハ以心伝心的デス
キ　昭和七年四月二十五日山岸ノ閣ニ古賀中尉ヲ訪
問シタノハドウ云フ理由デ訪問シタカ
被　ハイ其レハ電話ガアッタ為メデ其ノ時ノ話ハ手榴弾

ヲ殺ス時ハ静造迄ヘモ来テ呉レ黒岩カラ取ッテ殺
スカラ其ノ内六個ヲ愛郷塾ヘ預ッテ呉レトノ事
デシタソレデ私ハ其ノ際古賀ニ今少シ大川カラ軍資
金ヲ貰ッテ呉レル様ニ話シマシタ黒岩ハ内容ハ全然
知リマセン

問　廿五日カ六日ニ塾ニ到ッテ塾生ヲ上京サセ破壊ヲ援助
ニヤル話シタカ

被　ハイ内容ハ農民ノ計画ノ様ニ見セカケテ破壊サセ
先方カラ電報ノ一本位打タセテカラ決行シタイソ
レデ決行ハ満洲ニ居ル以因康信ヲ頼ッテ破壊
サセル心算デアッタノ

問　決行シタラ直ク逮捕サレルトハ考ヘナカッタカ

被　ハイ逃ゲラレルト思ッテ居リマシタ今カラ考ヘルトマルデ
子供ノ様ナ考ヘデスカ其ノ当時ハ逃ゲ延ビ得ルト確

4ノ五

裁　信シテ居リマシタ

裁　後援シテピストル入手ノ考ヘハ無カツタカ

被　ソンナ考ヘハアリマセンデシタ

裁　林指導者ト上京後ノ行動ハ

被　上京後ハ雑司ケ谷ノ借家ニ落附キマシタ右翼カラ
手榴弾ハ友人宛ヘ送ツタカラ明日届ケルトノ話デシタ
私ハ夫レカラ指導者ト共ニ林正一方ニ行キマシタ
ガ雑司ケ谷ノ家ハ場所ガ悪イトイフノデ引拂
フ事ニナリマシタノデ其ノ後ハ同志ニ林正一方ノ
二階カ会合所ニナル様ニナリマシタ

裁　昭和七年四月二十九日指導者林黒宗等ト雑司ケ
谷ノ家デ会ツタ時ノ話ハ

被　ハイ茲デハ危険ダカラ五月六日頃私ノ下宿ニ
来テ呉レトイフ事デ[illegible]廿九日家ハ引拂ヒマシ

ソウシテ当日ノ夜ハ林宅ヘ集会スル様ニシテ当
日ノ晩開催致シマシタ佐藤ト林ノ二人カ自動
車デ静古送ッテ来テ呉レマシタ

問　当日ノ晩塾デ堀川秀雄ニ会ッタカ

答　ハイ会ヒマシタカ当日ノ時ノ話ハ私カラ依頼シタ川
崎君ニ就テノ交渉ノ顛末デ我々カ決起ス
スレバ皆検挙サレテ終フカラ慎重ナ態度ヲ採
ル様ニ一尚西田ノ如キナラ自分ノ知ッテル小堂田
利太郎位デ足ルカラ同人ニ頼モウトノ事ダッタ
様デシタ

問　参加塾生ヲ上京サセルノハ何時ト決メタカ

答　五月一日ニ矢吹塙大貫等ヲ先発隊トシテ出ルベ
ク早ク決リニシタイ考ヘカラ上京サセマシタ夫レニハ
地理ニモ暗イカラ調査サセル必要モアッタノデス

(以下抄案)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

オ　塾生ニ費用調達ヲ命ジタノハ？

ヒ　ハイ夫レハ私モ其ノ頃懐ガ逼迫シテ居タシソレニ決行後ハ満洲ニ行ク心算デシタノデ橋、矢吹、小宮等ニ調達オ云ヒツケマシタガ橋ガ二百圓矢吹ガ三十圓ダケ調達シテ来マシタ

オ　昭和七年四月三十日上京シテ林宅デ古賀中尉、中村中尉、林等ト會合シタ時ノ話ハ？

ヒ　ハイ塚川トノ會見ノ結果ヲ簡単ニ話シマシタガ小林己三郎少将ニ対スル紹介状等ヲ書イテ貰ヒマシタ一寸申シ遅レマシタガ川崎ガ西田ヲヤル事ニ就テハ重大ダカラハッキリ認識シテカラヤル事ニシタト云ッテ居リマシタ。

是ニテ裁判長ハ再ビ一時休憩ヲ宣シ（午前十一時五十五分）午後一時再開引続キ被告橘孝三郎ノ訊

~~オ~~ 問ニ入ル、
デハ午前ニ引續キ訊問スルガ被告ハ昭和七年四月
三十日本間憲一郎ヲ訪ラツタ事ガアルカ？

ヒ、ハイ夫レハ後藤ガ満洲行キ前後デシテ小沼モ
満洲ニ行クトニフ話ヲ聞キマシタノデ是ハ絶好ノ機
會ダト思ヒマシタシ、小沼モ一緒ニヤラウト思ツテ行キ
マシタ、私モ本間ノ氣持モウスウス知ツテ居マシタ
ノデ腑ヲ引イテミヤウト思ツテ行キマシタラ本間
カラハ小沼等ヲ犬死サセテハナラナイ、軽挙盲動サ
セテハナラヌトニフ話デアリマシタ、

オ 昭和七年五月二十七日塙、矢吹、大貫、小宮ノ四名ト同
道上京シタ事ハ間違ヒナイカ？

ヒ、ハイ資金ハ十円宛ヲ分配シテヤリマシテ其ノ身廻リノ
品ヽ等ヲ求メサセテ支度サセテ上京シマシタガ其

金ハ塙ノ百余円ニ矢吹ノ三千余円ヲ合セテ石黒ノ分ハ
私ガ出シタ金額デアリマシタ、上野駅ニハ林ト後藤ガ
迎ヘニ来テ居テ直グニ青山ノ日本青年館ニ行キマ
シタ、ソウシテ茲ノ日本間ニ會合シタノハ私、後藤
塙、大貫、矢吹、小室ノ七名デシタ

オ 其時ノ協議ノ内容ハ

ヒ 変電所ノ襲撃ヲ確メル必要ガアリマスノデ大貫、
矢吹ヲ亀戸方面、塙ヲ田端方面、小室ヲ目黒方
面ヘソレゾレ成ル丈其附近ヘ宿泊サセル事トシマ
シテ大貫、矢吹ハ深川ノルンペン宿ヘ塙ハ本郷ノ学
生町ヘト云フ風ニシ尚温水ハ荏原町小山ノ從弟ノ
宅ヘ宿泊サセルコトニシテ淀橋方面ヲ担當サセルコ
トニ致シマシタ、ソレデ私カラ首相官邸、内大臣官邸
警視廳其他ノ襲撃計畫ノ内容ヲ一同ニ話シマシタ

オ　西田ヨリ何カ誰カヾヤル事モ話シタカ?

ヒ　話シマシタ西田ヨリヤル事モ計画ノ一部タル事ヤ大橋弾ノ個ヲ入手ノ予定タル事春日塩川、宮本等モ参加スル事ニナツテ居ル事モ話シマシタ

オ　其際一同偽名ヲ用フル事ニナツテ居タ様ダカネ

ヒ　ソンナ事ハドウデシタカ忘レテ終ヒマシタ

オ　ソレデ其晩後藤ガ満洲ヘ立ツノデ餞別ヲヤルト云フ話ガアツタ事ハ?

ヒ　其事モ一寸記憶シテ居リマセンガ午後九時四十五分ノ東京駅発デ出発シタノデ一同駅ニ見送リマシタソレデ五月一日夜ノ日本青年館ニ於ケル会合ノ内容ハ堀氏ニハ二日ノ朝来タノデ話シマシタ、五月一日ハ青年館ニ一泊シテ二日ニ帰郷致シマシタ

オ　帰郷シテ塩川ト会見シタ時ノ話ノ内容ハ?

ヒ
川崎君ノ意志ヲ傳ヘテ今一度考ヘテ與レ、ドンナ
理由カハッキリサセテ與レト言フ事ヲ聞カセラレ
マシタ私モソレハ尤モダト思ヒマシタ、五月二日ニ横
須賀ヘ来マシタノデ計画進行ノ状態ヲ話シマシタ
ラ立チ所ニ「ヤリマス」ト云ッテ其晩ハ眠リマシタ、ソ
シテ五月三日林ガ横須賀ヲ達シテ上京シタノデス
ガ横須賀ヘ行ク朝家ノ者ニハ私宅ヘ除隊兵ヲ
迎ヘニ行クカラト云ッテ出掛ケテ来タト申シマス
ノデ私ハソレハ危険ダ、グズグズシテ居タラ家ニ知
レテ迎ヘニ来ラレルト思ヒマシタノデ林ニ頼ンデ金
ヲ百二十余円丈與ヘテ午後一時十分赤塚駅發ノ
列車デ上京サセタ様ナ次第デシタ、ソレテ行先
ハ小宮ノ近クニセヨト云ッテオキマシタ、
被告ハ五月ノ四五日頃満州ニ行クカラト云ッテ
オ

ヒ　親戚知己等ヲ廻ツタネ
ハイ実ハ私モ是レガ最後カモ判ラヌト思ヒマシタノデ或日カラハ餞ヤナニカ貰ツタリシテ今迄色々御世話ニナツタ先々役所ニモ行ツテ官舎デ長官ニモ会ヒマシタ、尚内務部長ヤ山田農林課長ニモ挨拶ニ廻リマシタラ課長カラハ旅費トシテ金百円ヲ賜リマシタ、産業組合主事ノ鈴木氏カラモ同様百円ヲ頂キマシタ

オ　被告ハ五月七日ニ番田ト杉浦ダケヲ連レテ上京シタノハドウ云フ理由カ？

ヒ　番田ヲ伴レテ来タノハ番田ハ五月三日除隊ニナツテ家ニ居タカラデ実ハ五月一日聯隊ニ訪ネテ行ツテ計画ヲ話シテ同意ヲ得テ居タシ杉浦ハ切迫シテ居ルノデ山田久次ヲシテ迎ヘニヤツテ

愛郷塾ニ同道サセテ来テ決心ヲ確メタ上ヨロシイ
系ヲ派シテ上京サセマシタ、杉浦ハ当時自治農民
協會ガ組織中デアッタガ私ハ中心トシテ働ク事
ガ出来ナカッタノデ杉浦ヲ代理ニヤラセ様ト思ヒ
マシテ五月十日権藤先生宅デ開カレル農村青年
ノ講習會ニ代表トシテ出席セシムベク伴レテ
行キマシタ、私ハ実ハ杉浦ハ計畫ニハ参加サセナイ
心算デアッタト云フノハ内心私ノ思想オ面ノ後継
者ハ彼ダト思ッテ居タ様ナ関係モアリマシタノデ一
言モ話シハシテオキマセンデシタ、然シ彼ハ敏感ダカ
ラ薄々ハ知ッテ居ルダラウ、ソウスレバ物足ラズ感
ズルダラウト思ッテ簡単ニ話シタマデデ参加ヲ求
メタ事ハアリマセンデシタ、上京後私ハ林宅ヘ杉
浦ハ深川ノ能美食堂カヘ行キマシタ、ソシ

テ私ハ同志ヲ中央ノ相当ナ方面ニデモ入レタラ官
憲ニモ判ルセイト思ツタノデ色々尽力シタモノデ
誤解イマシタ、

オ　被告ハ手榴弾六箇ハ何時見タカ。

ヒ　ソレハ七日ノ晩始メテ見セラレタ

オ　五月×日林ノ宅デ會合シタノハドウ云フ顔触レダ
ツタカ。

ヒ　私ニ林、矢吹、横須賀、塙、大貫、小室、吉田等
ガ會合シマシタ

オ　杉浦ハ来ナカツタカ。

ヒ　杉浦ハ會合前ニ来合セテハ居リマシタガ私ハ會
合ニ加ハラセ度クナイト思ヒマシタノデ用事ヲ云
ヒツケテ外出サセマシタ

オ　其ノ時ノ協議ノ内容ハ。

七

変電所ノモ大体見当ガツイタノデ亀戸、目黒、旭町、岩、田端、東京変電所等都合六ヶ所ヲ二人、一組トシテ襲撃決行ヲ協議シマシタ、其時林ガ手榴弾一個ヲ手ニ取ツテ見セマシタ、ソレデ我々ガ用フルノハ是レダト謂ツテ投ゲ方モ教ヘマシタ、ソウシタラ吉田ハ「是ハ到底変電所破壊等ノ威力アルモノデハナイ、辛ウジテ人間ヲ傷ケル程度ニ過ギナイ」ト云ヒマシタノデ私ハ責任ガアリマスノデ「ソレデハイカヌ、早速土浦ニ行ツテ古賀ニ能力ヲ確メサセ様ト思ヒマシテ其晩吉田ヲ伴レテ土浦ノ山水閣ニ古賀ヲ尋ネマシタ、ソレデ古賀ニ會ツテ手榴弾ノ効力ヲ確メマシタラ古賀ハ「海軍ノハ聊カ趣キガ違フガ是デモ二千米位ノ範囲ノ破壊力ハアルダラウ」ト

話シマシタ、然シ「コンナ物ヲ當ニシテ居ル様デハ
駄目ダ、我々ハ愈々ノ場合ハ身ヲ以テ事ニ當ラ
ネバナラヌ」ト云フ言葉ヲ聞カセラレテ私ハ実ニ慚
愧ノ至リニ堪ヘナカッタノデ附注イマシタ、自分乍ラ
誠ニ恥ヅカシイ氣持ヲ致シマシタ、尚古賀ハ西
田税暗殺ノ事ニ就イテモ快心ヲ繰リ返シ〳〵
云ッテ居リマシテ「結局我々ハ救國濟民ノ目的ニ
叶ヘバ宜敷イカラ」ト云ッテ居リマシタ「何レ判ッタ」
ト云ッテ其晩岡中尉カラ四百圓ヲ受取ッテ帰リ
マシタガ勿論其金モ大川カラ出タモノト思ヒマス、
ソレカラ翌五月八日上京シテ林ノ宅ニ行キマシテ
古賀ノ爆弾効力ノ話ヲ致シマシタ

オ　其晩誰者ハ西川氏ヲ訪問シタカ？

ヒ　訪問シマシタガ不在デシタノデ林宅ノ許米内地ヲ

説イテオイテ引揚ゲマシタ、ソシテ林宅デ稲生、靖、矢吹、大貫、小宮、清水、横須賀、吉田、林ト九名ガ会合シテ古賀ノ説ヲ一同ニ伝ヘ「威力ハ充分ダカラ心配スルナ」ト云ヒ乍ラ「若シモ効力ガナカッタ時ハドウスルカ」ト云ヒツヽ、ジット一同ヲ見マシタラ横須賀ハ「駄目ダッタラ会社デ敵キ殺シセス」ト云ヒ、一同モ「ソウダ」」ト云ヒマシタノデ「宜敷イ」ト云ッテ安心シテ犠牲ヲ勘クスル考ヘカラ今迄ノ二人一組ダッタノヲ一人宛ニ決メマシテ場所ハ一寸忘レマシタガ各自ニ相手ヲ決メマシタ、尚委細ハ後藤ガ殴ッテカラノ事ニ仕様ト云フ事ニナリマシテ会合ヲ終リマシタ、其時大貫ハ水戸ノ高根扶、要人ヲ知ッテ居ルカラ襲撃計画ニ参加サセ様ト申シマシタノデ私ハヨロシイト云ッテ参加サセ

マ、タカ私ハ今更何ラ惱マナイ様ナ氣カラテ居ルモノデス。（以下次號）

オ　被告ハ五月十二日原田ヲ伴レテ満洲ニ行クト云フ
話ヲシタコトガアルカ
ヒ　ハイ　貴ハ一人デ行ク考ヘデシタガ　謂ハバ護衛
ノ様ナ意味カラ一緒ニ行ク様云ヒ付ケマシタ
オ　七日ノ晩被告ガ古賀ニ会ッタラ古賀ハドンナ
話ヲシタカ
ヒ　古賀ハ「事ハ切迫シタ、西田暗殺ナンカ詰ルト
カ話ヲストカ云ッテ居ル場合デア無イト云ッテ後、
藤宅へ使ヒヲヤッテ事茲ニ到ッテハドウニモ仕方
ガ無イ、古賀ハ前言ヲ撤回ス許リダト川崎ニ
決行方ヲ話シテ呉レト云ッテ居リマシタ　塩川
等三名ニハ待期シテ居ル様ニ云ヒマシタ　其レハ
古賀ノ方カラ手不足ノ様ナ場合ガアルカモ判ラ
ヌカラ其ノ時ハ直チニ応ゼラレル様ニスル為メデ

アッテ参加ヲ中止サセタノデハアリマセン

オ　宮本行雄トハ被告ハ其ノ晩會ッタカ

七　ハイ會ヒマシタ

オ　被告ハ昭和七年五月十日ノ午前中ニ上京シタノダガネ

七.　ソウデス九日ノ晩ハ歯ガ痛ンデ仕方ガ無カッタノデ
医者ニ診テ貰ッタラ化膿シテ居ルトノコトデシタノデ
膿ヲ出シテ貰ヒマシタラスッカリミマシタノデ翌朝
上京シテ日本青年館ニ後藤、林、篠原、矢吹、大
貫、小崖、温水、横須賀等ト會合シテマシテ変
電所襲撃計画ガ一人宛デアルコトニ就イテ
聊カ不安デシタノデ又二人宛ニスルコトヲ提議シ
マシテ其ノ通リ決定シテ會合ヲ終リマシタ

オ　手榴弾ハ何時渡ス様ニ話シタカ

七　手榴弾ハ十四五日頃ニ渡ス話モ致シマシタ

オ　洪作後ハドンナ風ニナル心算ダッタカ

ヒ　洪作後ハドンナコトヲシテモ我々ガ行ッテ居ル満洲ニ出ケテ来イト云ッテ置キマシタ

オ　総力ヲ一日免申寛ナル様ニトノ話ハナカッタカ

ヒ　話シマシタ其レカラ十二日ノ晩ニハ晩翠軒デ風見彰サンカラノ送別会ガアルカラ出席スル様ニ話シマシタソシテ其レカラ土浦ノ山水閣ニ古賀中尉ヲ訪ネマシテ「今度ノ事件デハ成ルダケ犠牲者ヲ尠クスル様ニ仕タイカラ」トノ話ヲ致シマシタラ古賀モ其ノ時初メテ憲兵隊ハ自首スル考ヘダトノ話ヲ致シマシタソシテ金ヲ百円借用シテ呉レト云ッテ頼ンデ一泊致シマシタ

オ　十一日ハ

ヒ　十二日ノ朝又上京シマシテ青山ノ青年館ニ行ッテ塾生達ニ会ヒマシテ再ビ変電所襲撃ヲ一人宛ニ[illegible]

事ヲ話シマシタ所シテ林、春田ヲ伴レテ原宿ニ山崎代議士ヲ訪問致シマシタ

オ　其レハドウ云フ理由デ

ヒ　其レハ私共ノ渡満ニ就イテ色々ト非常ニ御心配下サイマシテ紹介状ヲ上ゲルカラトノ御話デシタノデ頂キニ参リマシテ澤山金ヲ貰ッテ林ノ宅ニ帰リマシタ
ソウシタラ西川カラ電話デ至急会ヒ度イカラ大急ギデ行クカラ待ッテ居テ呉レトノコトデシタノデ待ッテ居タラ直グヤッテ来マシタ
ソウシテ満洲行ハ今君ヲ調査ノ上ヤル様ニシタラドウダ塾生達ハ暫ク沖人マノ様ナ方面ニデモ頼ンデ置イテハドウカトノ話デアリマシタ

オ　其レカラドウシタカ

ヒ　其レカラ林柏ヤ山崎代議士等ヲ訪問致シマシテ杉坂

屋ニ廻ッテ旅装ヲ整ヘテ林ノ宅ニ帰リマシタ ソウシ
テ森デ一泊致シマシタ

オ 五月十二日ハ、

ヒ 五月十三日ハ朝 田ヲ伴レテ横井先生宅ヘ行キ其レカラ
トウホーノ会デ風見代議士ニ会ヒマシテ送別会ヲ断リ
マシタソシテ松上信一ノ印刷屋ニ参リマシタトコロハ
仲人ヲ厚山頼ムノハ不可能ダト思ヒマシタノデ其レ等
適当ナ仕事ノ口ヲ心配シテ貰フル事デ尋ネタノデシタガ
不在デシタ
其レカラ森田弁護士宅ヘ挨拶ニ廻リマシテ午后九
時四十五分ノ東京駅発デ出発致シマシタ
当時ノ私ノ気持ハ堀リ達ノ今回ノ行動ニハ加ハラナイデ
後ニ待ッテ居テ貰ヒ度イト思ヒマシタノデ私ハ林ヲシテ
堀川等ニ出掛ケテ来ルナト云フコトヲ傳ヘサセマシタ

於テ裁判長ハ廿分間ノ休憩（午后二時三十五分）ヲ宣シ午后二時四十八分再開引續キ被告橋本ニ對スル訊問ヲ續行ス

オ　引續イテ訊ネルガ被告ハ満洲ニ出発前ニ大連ニ行ツタノハ

ヒ　其レハ金ガ間ニ合ハナイカラデス

オ　被告ハ昭和七年五月十五日奉天ニ着イタネ

ヒ　ハイソウデス

オ　襲撃決行ノコトハ何時知ツタカ

ヒ　着イテ直グ知リマシタ自治指導部ガ新京ニ引越シタトシフノデ十五日ノ朝八時頃新京ニ着イテミルト友人ノ西見菊雄ガ号外ヲ手ニシテ飛ンデ来タノデ初メテ知リマシタ　奉天デ小林正三郎氏ニ会ツテ海軍ノ若イノガコンナコトヲヤリマシタト話シマ

コレソラドウモ困ッタコトヲシテ呉レタト云ッテ居リ
マシタ
オ　十七日春田ヲ奉天ニヤッタノハ
ヒ　小林氏ノ處ニヤッタナラ何カ詳シイコトガ判ルダロウ
ト思ッテヤリマシタガヤッパリ判リマセンデシタ
オ　被告ハ新京デハ何處ニ居タカ
ヒ　ハイ自治指導部ノ隣ノ一ホテルニ居リマシタ
オ　三月四日頃迄ハ大シタ動キモ無カッタ様ダガ三月四日ハル
ピンニ向ッテ新京ヲ立ッタ相ダガ甚シハドウシテ居タ
ヒ　甚シハ私ガ追跡ヲ知ッタノハ十九日頃デシタ
私ハ實業俱樂部ノ二階ノ天井裏板ノ上デ三
日間飲マズ喰ハズニ過シタモノデシタ其レカラ後
人ガ引キ出シテ呉レテ廿五日正午ハルピンヘ着キマシ
テ一露人ノ許ヘ厄介ニナッテ居リマシタ